



腫瘍循環器学

昨今、オプジーボなどの抗がん剤治療の目覚ましい進歩や、遺伝子パネル検査による従来の概念にとらわれない抗がん剤治療が行われるようになっていきます。

こうした最先端のがん治療自体はとても有効な



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

治療法ですが、一方で抗全症状などが出た場合、がん剤投与などで血管や心臓が痛めつけられるため、がんからの生存者であるがんサバイバーに対しての心臓や血管のモニタリングや早期の治療介入が必要であるという概念が出てくるようになります。

具体的には薬剤で心筋が痛めつけられ、心臓の収縮する能力が低下し、心筋症が発症、息切れや体のむくみといった心不全

その際、がんに関連した代表的な薬剤としては、複数(アンスラサイクリン系薬剤、抗HER2製剤、VEGF阻害薬、プロテ

ソーム阻害薬、免疫チェックポイント阻害薬など)が挙げられるため、がん患者

者に関わる循環器内科医は、がんに関連した心疾患の専門性の知識が求められる時代になってきました。

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応：午前9:00～午後6:00
■定休日：土日(祝日は診療)
■訪問地域：西東京市、東久留米、新座、練馬の一部
↑診療相談はこちらから



在宅療養支援診療所

地域の皆様に
安心した医療を提供いたします

☎042-439-1250

http://m-hc.jp

規模拡大につき求人

■ケアマネジャー募集

当院は機能強化型在宅療養支援診療所に認可されています。

Matsubara homeclinic

まつばらホームクリニック